

# 「家庭・地域の教育力向上」についての提言

～「こどもまんなか」の視点で、ともに創る「教育(共育)のまち かめやま」～

令和 8 年 3 月

亀山市社会教育委員会

## 目次

|                     |   |
|---------------------|---|
| はじめに .....          | 1 |
| 1. 亀山市の現状と課題 .....  | 2 |
| (1) 学校教育を取り巻く現状     |   |
| (2) 生涯学習を取り巻く現状     |   |
| (3) 今日的な課題          |   |
| 2. 求められる役割と現状 ..... | 4 |
| (1) 家庭の教育力を高めるために   |   |
| (2) 地域の教育力を高めるために   |   |
| 3. 重点的な取組への提言 ..... | 7 |
| (1) 学校・園では          |   |
| (2) 教育委員会では         |   |
| おわりに .....          | 9 |

## はじめに ～ともに一歩前へ～

豊かな自然と悠久の歴史のある亀山市は、藩校「明倫舎(館)」「三重県女子師範学校」が設置されるなど、先人たちのたゆまぬ努力と郷土を愛する心が今も息づいており、学びを尊ぶ気風は現在へと大切に受け継がれています。

一方、社会に目を向けると、構造的な人口減少から少子高齢化を招き、人と人との相互の交流を深める機会が少なくなるなど、日常生活にも大きな影響を与えています。また、コロナ禍の経験は、情報機器の普及やDX社会の進展を一気に加速させ、大人だけではなく子どもたちの生活にも大きな変化をもたらしています。

さらに、家庭や地域コミュニティに目を向けると、家族形態の変化やライフスタイルの多様化・多忙化、貧困の連鎖から、日々の生活の中で、心のゆとりや余裕が失われ、子どもとの接し方や子育てに対するの悩みを抱えている保護者も増加しています。

また、「分断の社会」という言葉があります。このような時だからこそ、私たちが、日常の暮らしの中で相互に協力し、信頼し、つながることが大切と考えます。そこで改めて周りを見つめ直し、「何かに気づき」ともに手を取り合って「小さな新しい一歩」を踏み出すことができれば素晴らしいことだと考えます。

「教育は人づくり」とも言われます。私たち一人ひとりが、何かに「気づいて」「周囲と関わりながら行動する」ことにより、小さな一歩を大きく成長させることが未来を拓く力となると考えます。

社会教育は、「人と人がつながって生き方を学び、暮らしを豊かにしていくための活動」とも言えます。未来を担う子どもたちが、より健やかに・しなやかに育つためには、私たち大人の生き方が大きく影響すると考えます。

この提言が、多くの市民のご理解を得て、効果的かつ着実に取組が展開されることを期待します。

令和8年3月

亀山市社会教育委員長 森下 勇司

## 1. 亀山市の現状と課題

### (1) 学校教育を取り巻く現状

#### ○受け継がれる「教育のまち」

江戸時代には藩校「明倫舎（館）」が置かれ、明治時代には「三重県女子師範学校」が開校されるなど、古くから学びを大切にしてきました。先人たちの郷土を愛する心や「教育のまち」としての気風は、今も地域ボランティアや学校運営協議会など、多くの活発な活動に息づいています。

#### ○年間を通じた教育に関係した行事やイベント

教育に関係した行事やイベントが年間を通じて計画・実施され、市民による自主的な活動も盛んに行われています。

#### ○学校運営協議会の設置

全小中学校には学校運営協議会が設置され、委員として多くの保護者や地域住民が参画し、学校運営に対する熟議や協働体制が整いつつあります。

#### ○子どもたちの健全育成を支える諸活動

全ての小学校区では、学校支援ボランティアや放課後子ども教室等を実施している団体や組織を中心として、子どもたちの健全育成や安全安心のための諸活動や見守り等が積極的に展開されています。

#### ○職場体験学習や地域の方々による出前授業

中学校では、市内事業所、公共機関、個人事業者の協力により、職場体験学習が毎年行われ、学校での学びと自分の将来との関係を考える機会となっています。また小中学校では、年間を通して地域の方々や事業所等の協力により様々なテーマのふるさとキャリア教育「出前授業」が継続的に実施されています。

#### ○特色ある教育・保育

保育所・幼稚園・認定こども園では、地域の自然を活用した野外体験活動のほか、隣接する小学校や地域の方々との交流等、園の実情に応じた特色ある保育が行われています。小中学校では、地域とともに歩む、特色ある学校づくりが進められています。

### ○保幼認小接続カリキュラム

保育所・幼稚園・認定こども園と小学校は、保幼認小接続カリキュラムにより、就学前教育・保育から小学校教育への円滑な接続を図っています。

## (2)生涯学習を取り巻く現状

### ○各種団体と連携した取組

地域まちづくり協議会や市内で活動している多くの団体と連携し、公民館講座等、様々な講座が盛んに実施され、人材の育成や生涯学習環境の整備・充実を図っています。

### ○子育て家庭を支援するための施策や取組

「子育てマイブック」の作成や「かめやまお茶の間10選(実践)」の策定により、子育て家庭を支援するための施策や取組を推進しています。

### ○新図書館の開館

令和5年に「学びの場からつながる場へ」を基本コンセプトに新図書館が開館し、学びの拠点として多くの市民に親しまれています。

### ○青少年育成市民会議の取組

青少年育成市民会議では、平成20年に「『亀山っ子』市民宣言」を採択し、「サマーキャンプ」や「親子読書感想画」等の取組を通じて、『亀山っ子』の理想像実現に向けた事業を推進しています。

### ○保護者や地域と連携した活動

各小中学校では、保護者や地域団体と連携し、学校を核とした地域全体で子どもたちの学びや健やかな成長を支えるための活動を積極的に推進しています。

### ○企業・行政・市民の協働

企業・行政・市民の協働により、自然環境に目を向けた環境保全活動の推進や地域の活性化、郷土愛を育むための長期的な人材育成を図っています。

### (3) 今日的課題

#### ○伝統と文化の「共創」

地域の自然保護や伝統文化の継承等、先人たちが築き上げてきた風土や郷土の魅力等を、次世代に引き継ぐことの大切さを共有しつつ、いかにして現代に合った「支え合い」「新しい文化の魅力」を創り出すかが問われています。

#### ○家庭の孤立への寄り添い

家族形態の変化やライフスタイルが多様化し、子育てに孤軍奮闘する保護者が増えている現状があります。虐待やひきこもり、いじめや不登校を個々の問題とせず、社会全体で支えるべき「サイン」として受け止める視点をもった取組が求められています。

#### ○デジタル社会との健やかな共生

SNS・動画共有サイト等の利用の急激な進展により、ソーシャルメディアへの依存や有害情報の拡散などの弊害が指摘されており、社会問題にもなっています。一方、情報機器を活用して「孤立を防ぐ」「学びを広げる」といった視点での情報リテラシーの育成も不可欠です。

#### ○子育てに対する支援・相談体制の強化・整備

教育・福祉・行政の連携の一層の強化が求められ、子育てに対する支援・相談体制をさらに強化・整備していく必要があります。

## 2. 求められる役割と現状

### (1) 家庭の教育力を高めるために

#### ①家庭の役割

##### ○人と人とのつながりや大切さを学び育む場

家庭は、深い愛情と絆で結ばれた心の拠り所であり、家族みんなの大切な居場所です。また、相互に悩みごとを話し合ったり、感謝の気持ちを伝え合ったりできる、協力と信頼を基本とした「人と人とのつながりや大切さを学び育む場」「教育の原点」といえます。

## ○子どもの将来にとって多くのことを学ぶ場

家庭は、家族相互の何気ない会話や態度・ふるまいから、基本的な生活習慣をはじめ、自立心・自制心、思いやりの心や善悪の判断等の基本的倫理観、ものを大切にすることや社会的なマナー等、子どもの将来にとって多くのことを学ぶ大切な場です。また、家族が互いに癒され、明日へのエネルギーを蓄える「安心の拠点」でもあります。しかし、すべてを完璧にすることを目指すのではなく、周囲に助けを求められる「受援力」もまた、家庭に必要な教育力です。

## ○地域活動を含めた社会生活を学ぶ場

家庭は、子どもを社会の一員として育てる最小単位の集団とも言えます。家庭で多くのことを学び身につけた子どもたちは、将来、地域活動を支え、歴史や文化を継承する「地域の核」となって力を発揮し、活力ある地域を創り出す次の世代の担い手となります。

## ②家庭の現状

### ○一人ひとりの価値観の多様化・複雑化

一人ひとりの価値観が多様化・複雑化する中で、家庭内においても権利や自由が重視されるようになり、個に応じたきめ細やかな対応が不可欠になりつつあります。

### ○地縁的なつながりや個々の人間関係の希薄化

地縁的なつながりや個々の人間関係の希薄化が指摘されています。家庭内での子育ての不安や悩みを周囲に気軽に相談できない等、子育てを取り巻く環境は少なからず変化してきています。

### ○家庭教育を取り巻く環境の多様化・複雑化

長引く物価高騰や少子高齢化の影響を受け、仕事と子育ての両立の難しさや日々の生活に精一杯という状況の中で、心やくらしのゆとりや余裕が失われる等の様々な要因を背景として、家庭の孤立・密室化や保護者の子育てに関する不安・情報の格差など、家庭教育を取り巻く環境は一層多様化・複雑化しつつあります。

## OPTA活動

様々な状況の中でも、保護者が「子どもたちのために何かできないか」「学校に

協力することはないか」という温かい思いは、強く根付いており、各学校のPTA活動を礎として、市全体の連合PTA活動も継続的・精力的に行われています。コロナ禍での学校や子どもたちへの支援・協力をはじめ、日常的な学校運営に対する協力・協働活動が伝統的に受け継がれており、本市の大きな強みとなっています。

## (2) 地域の教育力を高めるために

### ① 地域の役割

#### ○ 将来を担う子どもたちを見守り育てる場

地域は、「地域の子は地域で育てる」、「子どもは地域の宝」という意識を大切にしながら、全体で、将来を担う子どもたちが健やかに成長できるよう見守り育てる「共育(きょういく)」の場です。

#### ○ 地域文化に直接触れることができる場

地域は、子どもたちが地域の文化や伝統行事に直接触れることができる最も適した場です。そうした機会で様々な世代が交流することで、子どもたちは地域の一員としての意識や誇りを持つことができると考えます。

#### ○ 「郷土愛」を育む場

地域で育てられた子どもには、地域を大切にする心が育まれます。やがて、その意識は「地域の役に立ちたい」「地域を離れてもいつかは戻りたい」という「郷土愛」につながり、「地域の子は地域で育てる」という意識の継承につながると考えます。

#### ○ 「共助」「共育」の場

地域は、住民同士のつながりが深まることで、互いの家庭を気遣い、支え合い、助け合う「共助」の場に大切な役割を果たします。また、「地域の子は地域で育てる」という伝統を大切にしつつ、様々な場面で、多世代が関わり合うことで、大人もまた子どもたちから学ぶ「共育(きょういく)」の場とする発想も必要です。

### ② 地域の現状

#### ○ 今も残る伝統行事の継承

「いのこ」や「虫送り」等、地域によっては今なお伝統を守り続けている行事が残っており、地域の方々に支えられながら子どもたちも楽しんで参加しています。

### ○地域における担い手不足による地域活動の低下

コロナ禍における地域イベントや行事の縮小等の影響を受け、特に、若者世代の地域への関心や地域活動への参加意欲の低下が見受けられます。地域人材の高齢化や固定化は、地域活動の形骸化や継承が途絶えかねない状況を招きます。

### ○まちづくり協議会・自治会の取組

地域のまち協等が、学校や地域を通じて参加を呼びかけ、地域の行事イベントに中学生がボランティア等として参加したり、子どもたちも行事を楽しんだり、お手伝いをしたりする姿を多く見かけるようになりました。子どもたちを主役にしつつ、「地域の大人の姿を子どもたちに見せていく」ことで、イベントも賑わい、参加者もさらに増えてきているようです。世代を超えた人の交流から、地域を見つめ考えるきっかけになっており、このような雰囲気は今後もっと大きくなっていくことを期待しています。

## 3. 重点的な取組への提言

### (1) 学校・園では

#### ○学校運営協議会を核とした、家庭・地域との協働体制の充実

各学校運営協議会において、学校・家庭・地域が地域の子どもたちにどんな子どもに育てほしいかを本音で話し合える場としてさらに充実させてください。

その学校・地域の「めざす子ども像」を共有し、その具現化に向けた方策を議論する中で、それぞれの役割を再認識し、学校・家庭・地域の三者が一体となった協働体制の充実と、安心・安全な子どもの居場所の確保に努められますようお願いいたします。

#### ○効果的な情報発信と家庭・地域からの支援の拡充

学校・園の様子や必要な支援の状況等を、タイムリーで分かりやすく情報発信し、家庭・地域からの信頼を高め、より連携しやすい関係づくりに努めながら、幅広く充実した持続可能な教育活動の推進を図られますようお願いいたします。

学校の「見える化」を進め、地域住民が協力しやすい（「自分たちに何ができるか」をイメージしやすい）環境を整えることも大切です。

○子どもや家庭の現状、国の動きや時代の流れなどに即した、学校・園の柔軟な運営  
や組織・体制の整備

学校・園を取り巻く現状や時代の流れなどに即し、柔軟な運営や組織・体制の整備を意識し、学校・園、地域と家庭とを結ぶハブとしての機能の強化に努められますようお願いします。

○質の高い教育や保育の提供と健やかな心身の育成

これからの時代を健やかに、しなやかに生き抜く「亀山っ子」を育てるため、乳幼児期からの個に応じた質の高い教育や保育を引き続き提供し、特に、地域との協働による体験活動や自然とふれあう活動を意図的に取り入れられますようお願いします。

(2)教育委員会では

○「教育のまちかめやま」の継承に向けた市民の関心・理解の向上

市民が教育について真摯に考えることにより、「亀山市の教育」に対する意識や熱意が一層高まることが期待できます。例えば、「教育の日」の制定などをきっかけに、市民や地域が改めて教育の必要性を認識し、学校・家庭・地域で教育を継承する風土が育つよう、市民一人ひとりの教育に対する関心・理解の向上に努められますようお願いします。今ある取組に「家庭や地域の教育力の向上」という視点を盛り込むことで、持続可能な推進体制を構築してください。

○「かめやまお茶の間10選(実践)」の周知と定着による子どもの育ち支援

「かめやまお茶の間10選(実践)」は、多くの子育て家庭には浸透しています。今後は、子育て家庭も含めた全市民に対し、さらなる周知・定着を図り、子どもの育ちの支援に努められますようお願いします。

○子育ての不安や悩みに関する相談体制の整備・充実

子育てに対する不安や悩みを抱えている保護者に対して、いつでも気軽に相談できる場や機会の提供を、さらに充実させる取り組みも必要です。保護者がこんなことでも相談してもよいんだと思えるような温かて敷居の低い相談機会を増やしつつ、専門家であるスクールカウンセラーの効果的な活用、福祉部局との連携体制のさらなる強化など、引き続きよりきめ細やかな相談体制の整備・充実に努められますようお願いします。

## おわりに

豊かな自然と歴史のある亀山市は、「教育のまちかめやま」として、学校や園・家庭・地域・行政・地域企業が連携し、地域に根ざした教育を大切に取り組んできました。

時代の様々な変化により、その繋がりが希薄になりつつある中で、更に新たな歩みを進めるためには、とも（共）に育ちあう“共育”の文化の醸成が必要ではないでしょうか。子どもも大人もともに育ち合う新たな文化を醸成することで、新たな気づきや発見、想像できなかった未来を描くことができると考えます。

子どもたちが夢と希望を持って未来を切り拓いていくためには、小さな頃から様々な体験を通して小さな成功体験や失敗を宝に、自分や家族や仲間、地域や学校・園、社会と確かな信頼を築いていくことがとても大事だと思います。そして、子どもたちを取り巻く様々な環境が豊かで幸せであることも不可欠です。

人々の暮らしを支える自然環境の豊かさ、寄り添う大人たちが幸せと感じられる心のゆとりをもち、安心して暮らせる生活基盤の確保、一人ひとりを大切にしたまちづくり。誰もが、“幸せ”と感ずることができ愛溢れる well-being なまちを実現できた時、子どもはその未来を引き継ぎ、大切に育てていってほしいと考えます。

そのためには、一人ひとりがより良く幸せに生きようとする努力が必要です。

この新たな取り組みには、私たち全員の協力無くしては実現できません。自覚と勇気を持って手を取り合い、知恵を出し合い、本気で取り組むことで、これからのより良い幸せな亀山を創っていきましょう。

まずは自分から、そしてみんなで一歩前へ。

令和8年3月

亀山市社会教育委員 一同